



# グローバル教育センターの取り組み



グローバル教育センターは6年前に、海外から受け入れた外国人留学生に対し修学および生活に必要な教育・指導・助言を行うこと、国内外におけるさまざまな国際交流を推進すること、本学学生を海外留学に派遣することなどを目的として設立されました。現在は、南門からほど近い学生センター棟の3階にあり、海外からの留学生や、留学を志す本学の学生が情報を収集したり、留学についての相談をするために、足繁く訪れています。

グローバル教育センターとは？

## グローバル教育センターのミッション

2012年、本学は文科省によるグローバル人材育成推進事業に採択されてグローバル人材育成推進センターが始動しました。以来、当センターは、本学グローバル人材育成推進センターと

連携して、**海外派遣留学支援**（海外協定校との交換留学生の派遣業務、海外短期研修の企画運営、本学での日本語サマープログラムの企画運営）**外国人留学生支援**（本学に留学する海外からの

留学生の受入業務）**協定締結**（海外の大学および研究教育機関との協定開拓および締結業務）を中心に活動しています。

## 世界に羽ばたく学生たちのサポート



期交換留学経験者相談会」さらに留学に興味はあっても準備の手順がわからずなかなか踏み出せない学生のために「留学カリキュラムデザイン相談会」（毎週月曜日）も開催しています。

域のトップ大学で勉強しています。できるだけ多くの学生を希望する大学に派遣するべく、新規協定校開拓・拡大に取り組んでおり、協定の内容も実質的に充実したものとなるよう努力しています。

### 海外派遣留学支援

在学中に留学を希望する本学学生には、留学前後の相談や、情報提供、語学や異文化適応などの留学準備への支援を行い、海外への長期・短期留学や語学研修に送り出しています。そして、学生の夢をかなえるべく、本学国際課と協働して、学内外の様々な奨学金情報の案内もしています。

また、留学関連の情報が行き渡るように、新たな取り組みとして図書館共同スペースを有効利用しています。あらゆる分野・専攻の学生が訪れるこのスペースを会場に、「帰国報告会」「長

### 外国人留学生支援

外国人留学生支援としては、本学に留学してくる外国人留学生に対し、受け入れから帰国までの一貫した教育指導およびサポート、生活相談業務を行っています。留学生向けの日本語の授業はもとより、日本文化のワークショップ（着付け、生け花、歌舞伎鑑賞等）などを主催して好評を得ています。

### 協定締結

本学と交換留学協定を結ぶ大学や研究機関は現在23か国・地域で、61機関に上っています。2014年度は37名が、半年～1年の長期交換留学生として、欧米、アジア等広範囲にわたり、各地

このほかにも、本学学生と留学生との国際交流プログラムを実施するほか、海外の大学とTV会議を通して研究交流をはかったり、ほかにもさまざまな説明会をはじめ国際交流セミナーやイベントを、図書館や学生・キャリア支援課、外国語教育センターとも連携して企画し、国際的な知の環境を提供するような活動を心がけています。



# み グローバル人材育成への挑戦

## 奨学金を活用して留学した学生の声



**伊勢 茜**

理学部 化学科 3年  
派遣大学：モナッシュ大学（オーストラリア）

「せっかくだから長期留学なんてどう？」とIELTSの結果をみた先生が一言。お茶大短期留学プログラム中に受験した時のことです。そんなきっかけで長期留学を考えるようになった私でしたが、実は、化学科初の長期留学生という前例のなさや経済的負担から、応募時には随分と悩みました。そんな中、私の背中を押してくれたのが、「JASSO 海外留学支援制度」です。もちろん民間奨学金はたくさんありますが、そのほとんどが一年以上前からの応募で、その中であって留学決定後に申請可能なこの奨学金は大きな助けとなりました。いざ留学してみると、モナッシュは音楽の歴史や日本のポップカルチャーなど、一味違った授業もそろっていて圧倒されます。お茶大協定校の総合大学の中では、数少ない理系科目も充実したところではないでしょうか。移民の国だけあって、オーストラリアでは、ギリシャやベトナム、中華系など、一つの国にながらにして様々な国の文化を肌で感じることができます。一方、それと同時にオーストラリアは世界の中でも物価が高い国の一つ。渡航後に改めて、奨学金のありがたさをかみしめているところです。将来は、化学のおもしろさを子供達へ伝えていくサイエンスコミュニケーション活動に従事していきたいと考えています。



**柳下 明莉**

文教育学部 グローバル文化学環 3年  
派遣大学：ロンドン大学  
東洋アフリカ研究学院（イギリス）

もっと専門的な知識を得たい。もっと自分にとって厳しい環境に身を置きたい。自分を成長させたいと思って飛び乗ってみた留学ですが、予想通りの厳しさに、自分が思うように対処できず沈むこともありました。今では、落ち込んだ時にそんな自分を面白がる余裕が出てきました。私は将来、国際協力に関する場で働きたいと考えています。SOAS ではとても豊富な選択肢の中から、興味のあるアイデンティティや、紛争に関する専門的な授業を受けることができ、とても面白いです。留学にお金がかかるのは想定してはいましたが、渡航後は更にそれを実感しています。例えばビザを申請するのに5万円、延長するのに7万円というのには驚きました。私は幸いにも「官民協働海外留学支援制度（トビタテ！留学 Japan）」という奨学金のお陰で、あまり家庭に負担をかけずに留学することができました。留学先での勉学・生活に集中できるのはとてもありがたいです。その点、奨学金システムの充実など、より多くの学生がお金の心配をせずに、留学できるサポート体制があると良いと思います。強く希望して得た交換留学というチャンス。あと残りの7か月、勉強に励み、様々な文化と人に触れることのできるSOASでの留学生生活を十二分に楽しみ、吸収できることを存分に吸収していきたいです。



**田辺 裕子**

文教育学部 言語文化学科  
英語圏言語文化コース 4年  
派遣大学：オックスフォード大学  
クィーンズカレッジ（イギリス）

私の留学したオックスフォード大学は約1000年の歴史を持つ大学で、学問的生活はとても濃いものでした。私が専攻した英文学では毎週エッセイが課され、その為に何冊もの本を読む必要がありました。講義では、教授が1時間分の原稿を用意してきて熱心に語り、また個人指導では教授や他の学生と議論をじっくり行いました。こうした素晴らしい留学生活の経済的な支えになったのは奨学金でした。近年、イギリスでは教育費が年々上がっており、国内からの反発もさることながら、非EU諸国出身の学生には破格の費用です。それに加え、物価も家賃も安くはありません。このように、意欲だけではどうにもならない経済的障壁が、海外留学にはあるのが現状です。奨学金が支えてくれるのは、留学生活の経済面だけではなく、目に見えない力を養う場でもあると痛感しています。私があの1年で得たのは英語力だけでなく、深い思考力や広い視野だと思うからです。奨学金によって、素晴らしい環境で数字では表せない知の力を得ることができたことに大変感謝し、これからも一層研究に励みたいと強く思っています。



**小松 璃子**

理学部 博士前期課程情報科学コース 1年  
派遣大学：タンペレ大学（フィンランド）

今回私は、自身の取り組んでいる研究の技術向上や意見交換を目的として、フィンランドで2ヶ月の短期留学をしました。授業料や留学の前後でアルバイトができないことを考慮して、JASSOの「海外留学交流支援制度」に申し込みました。普段は実家で生活しているため、留学先での生活に不安がありましたが、奨学金の支給により金銭面で困ることなく、快適に過ごすことができました。また、現地での友人との食事やレジャーなども楽しむことが出来ました。研究面では、異なる文化の方からの自分の研究に対する意見や感じ方など、多くのフィードバックを頂くことができました。大学教授との議論や質疑の中で、研究の新たな側面を見出したり、未知の技術に触れる機会もあり、とても実りのある留学となりました。一方で、今回の留学を通して、日本人学生が国外の学生や教授と共同研究をする機会が少ないと感じました。日本と海外の技術を大学レベルで共有していくことで、世の中の情報技術が大きく進歩するのではないかと考えています。海外の文化や研究に目を向ける第一歩として、留学はとても良い経験となりました。多くの学生の方に積極的に留学経験をさせていただきたいと感じています。将来は、国内外を問わず、情報技術がより生活に浸透できるように社会づくりに貢献したいと考えています。

### グローバル教育センター長からのメッセージ

当センターでは、毎年多くのお茶大生を世界各地に派遣しています。留学の種類は異なりますが、学生たちが留学生活を経て、見違えるように成長して帰国し、留学の経験を生かしてさらに立派に成長してゆく姿を見ると、純粹に喜びを感じます。少しでも多くの学生が、在学中に世界へと目を開かせてくれるグローバルな経験をすることができるよう、そしてその後世界を舞台として活躍できるようにと切に願っています。